

# 国際女性デーとは

国連は、1975年の国際婦人年において、3月8日を国際女性デーと定めました。20世紀初頭の北米とヨーロッパにおける運動に端を発し、開発途上国と先進国の双方で、国際的な女性運動が広がってきました。国際女性デーは、一般的な女性たちが達成してきた成果、そして勇気と決断をたたえる日として、全世界で記念イベントが開催されています。

## 第1部 趣旨

文京区とUN Womenのパートナーシップは10周年を迎えました。この節目の年に、改めて「自分らしく生きられる社会とは何か」を考える機会をつくります。

UN Womenは、性別や年齢、人種の壁を越えて誰もが自分らしく生きられる社会を目指す「アンステレオタイプ・アライアンス」の活動を主導してきました。本シンポジウムでは、デザイン、企業戦略、メディア、そして政策立案に携わる専門家を招き、多くの人が日常の中で自然に触れるポスターや写真、広告が内包するメッセージが、包摂的な社会を築くにあたりどのような役割を果たすことができるのか喧々諤々の議論を交わします。アートが実現する社会変革。ぜひ、一緒に考えてみましょう。

## 第2部 基調講演



後藤さくら撮影

### 【プロフィール】

富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。社会学博士。平安女学院短期大学助教授、シカゴ大学人類学部客員研究員、京都精華大学助教授、国際日本文化研究センター客員助教授、ボン大学客員教授、コロンビア大学客員教授、メキシコ大学院大学客員教授等を経る。1993年東京大学文学部助教授(社会学)、1995年から2011年3月まで、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2012年度から2016年度まで、立命館大学特別招聘教授。2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。第20-22期学術会議会員。第23-25期日本学術会議連携会員。

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。

1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサントリー学芸賞受賞。

2011年度、「朝日賞」受賞。受賞理由「女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践」  
2019年、フィンランド共和国からHän Honours受賞(長年の男女平等への貢献に対する感謝状)

2020年、「アメリカ芸術科学アカデミー会員」に選出される。

2024年、米 タイム誌「世界で最も影響力のある100人」に選定される。

WANのURL <https://wan.or.jp/>

申込フォーム  
QRコード



参加申込 (事前申込制) 2月2日(月)から2月20日(金)必着

### ①申込フォーム(1回の申込につき1人まで)

「連絡事項」欄に、ふりがな、年齢、在勤者は勤務先・所在地、在学者は学校名も記入。

### ②往復はがき(1枚1人まで)

<往信面>「国際女性デー企画」と下記情報を明記。

(①氏名(ふりがな) / ②年齢 / ③電話番号 / ④住所(在勤者は勤務先名・所在地、在学者は学校名も) / ⑤保育希望の有無(お子さまの名前・年齢・アレルギーの有無等) / ⑥手話通訳者希望の有無)

※消えるボールペンでの記入はご遠慮ください。

【郵送先】〒112-8555 文京区春日1-16-21 文京シビックセンター14階 文京区女性団体連絡会

<返信面> 表面に応募者ご自身の宛先を明記してください。

当落通知 申込フォームからお申込みの方は「メール」で、往復はがきでお申込みの方は、「はがき」にて通知します。